

大地

足寄小学校学校だより

令和7(2025)年

11

256号

足寄町立足寄小学校長 池田圭子

イントロのない時代に育つ子どもたちへ

— 家庭でも学校でも“つかみ”を大切に —



ご協力へ感謝

11月10日(月)午後から16日(日)まで、インフルエンザや発熱による学校閉鎖を行いました。

その間、保護者の皆さま、地域の方々、そして関係機関の皆さまには多大なご協力をいただき、心より感謝申し上げます。皆さまのお力添えのおかげで、無事に収束し、子どもたちの明るい声が学校に戻り、元気に学校生活を送っていることを大変、嬉しく思います。ありがとうございました。

① 音楽から見る時代変化

最近のヒット曲は“イントロなし”で始まるスタイルが主流

Official髭男dismの「Subtitle」、Adoの「新時代」、YOASOBIの「群青」など、冒頭から歌声が始まり、聴き手の心を一瞬でつかみにかかります。

背景には、SpotifyやTikTokなどのストリーミング文化があります。数秒で曲を判断する時代になり、タイムパフォーマンス（タイパ）重視の流れが音楽にも広がっています。かつては、B'zの「LOVE PHANTOM」のように、1分以上の壮大なイントロで世界観を築く曲もありましたが、今は「すぐ本題へ」が主流です。

学び方への影響と授業での工夫

この変化は、子どもたちの学び方にも影響しています。彼らは情報を瞬時に判断し、必要かどうかを選び取る力を持っています。だからこそ、授業でも「最初のつかみ」が重要です。先生たちは問いかけや実物、動画、ユーモアなどを工夫し、「この授業、面白そう！」と思ってもらえるようにしています。



家庭でできる“つかみ”の工夫

学校だけでなく、家庭でもちょっとした“つかみ”が子どもとの関係を深めるきっかけになります。

「今日の夕飯、ヒント3つで当ててみて！」

→ クイズ形式で食卓が楽しくなり、会話が広がります。

「今日一番びっくりしたこと、3秒で教えて！」

→ 短時間でも、子どもの視点を知ることができます。

「この曲、どんな気持ちで作ったと思う？」

→ 音楽を通して感情や背景を考える力が育ちます。

「この道具、何に使うと思う？」

→ 日常の中で“問い”を立てる習慣が身につきます。

「この写真、どこで撮ったと思う？」

→ 思い出を振り返るきっかけに。記憶力や想像力も育ちます。



こうした“つかみ”は、子どもの好奇心を刺激し、自然な会話や学びにつながります。そして何より、「話したくなる空気」をつくるのが、家庭や学校での教育の第一歩です。



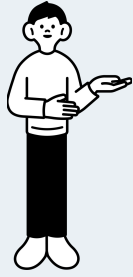
音楽の変化は、時代の変化の象徴です。

子どもたちが生きるこの時代に合わせて、私たち大人も「伝え方」や「関わり方」を見直していく必要があるのかもしれません。

イントロがなくても、心に残る曲があります。同じように、短い時間でも、深く心に響く関わりがあります。そんな関わりを、学校と家庭、地域で一緒に育てていきましょう。

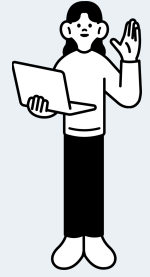
学校へのご意見やご相談を遠慮なくお寄せいただければ幸いです。

よろしくお願いいたします。



児童質問紙 足寄小学校の児童の傾向

児童生徒の学習意欲や生活習慣などを把握し、学力との関係进行分析することで、教育の改善や指導の充実に役立てることを目的としています。本校（足寄町立足寄小学校）の児童の状況について、北海道（公立）及び全国（公立）との比較を交えながら分析し、今後の学校での取り組み、および家庭と連携した改善策をお知らせいたします。



1 本校児童の傾向分析 強みと課題

本校の児童は、生活基盤の安定と深い学びへの意欲において全国平均を大きく上回る傾向があります。その一方で、特定の教科の理解度や家庭学習時間の確保に課題が認められます。

強みとしての傾向は、高い自己肯定感・深い学習です。

本校の児童は、自分自身を肯定的に捉え、学習に対する前向きな姿勢が強いことがわかります。

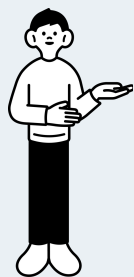
2 強み

質問事項	本校	北海道	全国	傾向
毎日同じ時刻に寝る (Q2)	48.6%	37.7%	38.9%	生活リズムの安定：全国・北海道（37.7%）と比較して、生活習慣の安定が顕著
将来の夢や目標を持つ (Q7)	67.6%	60.7%	60.7%	高い自己肯定感と意欲：夢や目標を持つ児童の割合が全国平均を約7ポイント上回っている
自分によいところがある (Q5)	48.6%	44.7%	47.3%	自己肯定感：「当てはまる」と回答した児童の割合が、全国平均をわずかに上回っている
学習の振り返り (Q36)	45.9%	29.8%	31.2%	自己省察能力：分かった点や分からなかった点を見直し、次の学習につなげている児童が極めて多い（全国差+14.7pt）
話し合いで考えが深まる (Q35)	54.1%	43.0%	40.9%	協働的な学びへの積極性：友達との話し合いを通じて、自分の考えを深められていると実感している児童が多い
理科の勉強が好き (Q61)	73.0%	56.9%	51.7%	理科への関心：理科が「得意」（62.2%）、「授業内容がよく分かる」（64.9%）と、理科に対する興味・理解度が高水準

3 課題点

質問事項	本校	北海道	全国	傾向
算数の授業がよく分かる (Q54)	32.4%	38.2%	41.7%	算数理解度の遅れ：全国平均と比べ、算数の授業内容を理解できていると感じる児童が少ない。また、「算数が好きではない/全く好きではない」（Q53の3+4）が64.8%と、苦手意識が強い
平日1時間以上の学習時間 (Q17)	40.5%	47.9%	54%	家庭学習時間の不足：平日に1時間以上勉強している児童の割合が、全国平均より低い状況
全く読書をしない (Q21)	40.5%	31.4%	29.2%	読書習慣の欠如：読書を全くしない児童の割合が全国平均より11ポイント以上高く、読書機会の確保が喫緊の課題
先生は良いところを認めてくれる (Q6)	48.6%	56.3%	55.3%	承認の認知度：児童が持つ高い自己肯定感（Q5）を維持・向上させるためにも、教師からの肯定的なフィードバックの認知度（全国比-6.7pt）を高める必要がある
ICT機器をほぼ毎日使用 (Q28)	21.6%	54.5%	46.7%	ICT活用頻度の低さ：児童のICTスキルに関する自己評価は高いものの（Q29）、学校での日常的な活用が全国平均の半分以下と、著しく低い状態

＊算数の授業内容が「よく分からない」と感じている児童の割合が、全国平均の約2倍であり、算数指導の強化が急務
＊児童は自分自身の良い点を認識している（Q5: 48.6%が「当てはまる」）にもかかわらず、先生からの承認を感じている割合は全国平均を下回っています。「児童の高い自己肯定感を損なわない」ためにも、教師側からの積極的な声かけや承認が重要



令和7年度全国学力・学習状況調査（児童質問紙）の結果から、足寄小学校の児童は、生活習慣や意欲面において全国平均を上回る力を持っていることが分かりました。一方で、算数の理解度や読書習慣、自己肯定感の育成には課題も見られました。

学校では、説明活動の充実や教師からの肯定的な声かけを通じて、児童の学びと心の成長を支えてまいります。

ご家庭でも、学習時間の確保や読書の促進、粘り強く取り組む姿勢への励ましなど、引き続き温かいご支援をお願いいたします。



4 改善点と学校・家庭連携の具体的な取り組み

本校の「高い学習意欲（Q35、Q36）や安定した生活リズム（Q2、Q3）」という強みを土台としつつ、算数科の理解度向上、学習習慣の確立、そして自己肯定感を支える肯定的な関わり方を重点的に改善します。

5 学校における改善目標と取り組み

重点課題	改善目標	学校の具体的な取組
算数科の理解度向上 (Q54)	児童が、つまづきを明確にし、多角的に問題を解決する力を養う。	「説明活動」の徹底と指導の個別化: 算数授業において、「どのように考えたのかを説明する活動」（Q58）の機会を増やし、思考の可視化を促す。また、分からなかった問題について、粘り強く考える姿勢（Q57: 43.2%が当てはまる）を支援するため、個別の理解度に応じた復習や指導を徹底する
ICTの授業活用促進 (Q28)	ICTを日常的な学習ツールとして定着させ、児童の学習を支援する。	探究・情報収集活動の強化: 児童の高いICTスキル自己評価（Q29）を実際の活用頻度（Q28）につなげるため、全教科で情報収集や整理、発表資料作成を行う活動を日常的に導入する
自己肯定感の維持・向上 (Q6)	教師と児童の信頼関係を深め、児童の良い点や努力を具体的に承認する。	ポジティブフィードバックの意識化: 教師からの承認認知度（Q6）を向上させるため、全ての教職員が、授業後や生活指導の中で、児童の「前よりもできるようになったところ」や「良いところ」（Q48）を具体的に伝え、努力を評価する機会を増やす

6 家庭と連携した改善策（家庭での具体的な協力をお願いします）

連携事項	家庭での具体的な協力内容	期待される効果
算数への前向きな関わり	すぐに答えを教えず、「どう考えたの?」「図に書いてみよう」などと、粘り強く考える機会を与え、多角的な思考を促してください	算数への苦手意識を克服し、自力で解決する力を養います
学習時間と環境の確保 (Q17)	平日、テレビや遊びの時間と区別して、最低30分から1時間程度、集中して勉強できる時間と場所をご用意ください	基礎的な学習習慣を定着させます
読書機会の提供 (Q21)	読書を全くしない児童の割合が全国平均より高い（40.5%）現状を改善するため、毎日10分程度でも、ご家庭で読書の時間を取り入れ、図書館の活用や興味のある本を選ぶサポートをお願いします	読解力や語彙力の向上を支援します
肯定的な承認の継続 (Q5, Q7)	お子様の「将来の夢や目標」（Q7）や「よいところ」（Q5）について、日常的に話題にし、努力や成長を具体的に褒めることで、高い自己肯定感を維持・向上させてください	児童の精神的な安定と学習意欲の向上につながります
規則正しい生活の維持 (Q2, Q3)	本校の強みである規則正しい生活習慣（Q2: 48.6%）を継続するため、引き続き、就寝時刻・起床時刻の安定にご協力をお願いいたします	学習への集中力を高めます

つながる力が 子どもたちの未来をひらく
学校・保護者・地域 みんなでつながりましょう！



Google Chrome 児童・生徒用タブレット端末 更新

ご協力ありがとうございます

足寄町では、11月からタブレット端末のOSが切り替わり、「Microsoft のWindows」から「Google のChromeOS」となりました。10月末までは授業中、「Microsoft Teams」を利用して個別の課題に取り組んだり、協働で学んだりしていましたが、11月から「Google Classroom」を利用するの学びに変わりました。

子どもたちは、「Classroom」に変わってもすぐに対応しています。その対応力の高さや柔軟性の高さに関心させられます。

「スマイルネクスト」ドリル等は以前と変わらず利用していきます。また、新規に「Canva」が利用できるようになりました。様々なデザインを作成することが可能で共同編集作業等もできるものです。学校では、提案やポスター、プレゼンテーション、文書作成、ホワイトボード機能等での利用が多く考えられます。時代や現代の教育にマッチした使用をしていきます。

タブレット端末が新しくなりましたので、ご家庭での「Wi-Fi」の再設定が必要となります。

各学年持ち帰りの期日が異なりますので、その都度、お知らせしています。ご協力をよろしくお願いいたします。

リテラシー教育

インターネットやSNSは便利ですが、情報の正しさや安全性を見極める力が必要です。子どもたちが「うそや危険な情報にだまされない」「自分や他人を傷つけない」ためには、家庭でも話し合いが大切です。

小さな習慣——「情報は本当かな?」「投稿しても大丈夫かな?」と考えること——が、子どもを守ります。

★情報をうのみにしない

★個人情報を守る

★相手を思いやる投稿をする

保護者の皆様にはお願いです——

「クリックする前に、ちょっと深呼吸!」

「その情報、本物?」

「投稿前に、未来の自分に相談!」等々

家庭でのひとことが、子どもを守る大きな力になります。「それ、本当に正しいかな?」と声をかけるだけで、安心が広がります。

一緒にネットの世界を安全で楽しいものにしていきましょう!

足寄町学校教育振興会研究大会が本校で開催されました

義務教育の振興を核とし、町全体の教育の充実と振興を図ることを目的として11月19日に足寄小学校で開催しました。「理解し、伝え合う力」を高める授業づくりを研究テーマに掲げ、「出会わせる」「決めさせる」「整理する」「つなげる」を意識した授業のコーディネートに取り組み、子どもたちが教材や仲間と出会い、課題を自らの手で解決していく中で、自ら判断し、主体的に行動する力を育てていくことを目指した授業づくりを行っています。その成果の一つとして2年1組、4年1組、3年支援学級での授業公開を行いました。町内の先生方が一堂に会し、授業改善について学習しました。子どもたちも「自ら考え」意見を出し合い、学び合う姿が輝いていました。

新しい学びで発見!



1年生 音楽
鍵盤ハーモニカ

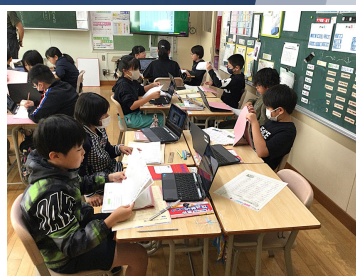


2年生 算数
かけ算(2)

学び合う授業中の子どもたち



6年生 社会
租税教室(足寄町役場)



5年生 国語



4年生 理科



3年生 体育
マット運動

12月の行事予定

1日(月) 挨拶いっぱい運動交通安全の日
3日(水) 職員会議
4日(木) 授業参観日(1・2・3年)
親子レク(3年)
5日(金) 授業参観日(4・5・6年)
親子レク(5年)
9日(火) 1年生交流学習(大営地小と)
10日(水) 研修日
11日(木) 標準学力検査

12日(月) 標準学力検査
クラブ
16日(火) 町内高学年(5・6年)交流学習
中学校体験会(6年)
25日(木) 2学期終業式

冬季休業 令和7年12月26日(金) ~ 令和8年1月13日(火)
学校閉庁日 令和7年12月29日(月) ~ 令和8年1月4日(日)

